The Molecular Biology Society of Japan
MBSJ NEWS
日本分子生物学会
2011.11
No.100

会報

目　次

特定非営利活動法人
日本分子生物学会
http://www.mbsj.jp/

日本分子生物学会編 ―学会創立 30 周年記念出版―

分子生物学会は 2008 年に創立 30 周年を迎えましたが，これを記念し，

1. **その歴史を留め**（分子生物学に魅せられた人々），
2. **分子生物学の現在と将来を概観・展望し**（21世紀の分子生物学），
3. **次なる世代にその魅力を伝える**（なぜなぜ生物学）

ことを目的に，以下の３部作の出版を企画いたしました．
（出版社 東京化学同人に直接注文で，会員特別割引）

＜会員特典＞ 日本分子生物学会会員が購入する場合，下記の特価となります（送料・税込）．ただし，海外への送品は実費請求となります．会員特典による頒布は東京化学同人への直接申し込みに限ります．書店・大学生協等では扱いません．東京化学同人のホームページ上に申込用紙がございますので，申込用紙をご利用の上，直接東京化学同人へお申込下さい．

21世紀の分子生物学

12月中旬発売

A5 判　横組　２色刷　約 300 ページ　~~定価 3360 円~~ → **特価 2850 円**

各分野の第一線で活躍する専門家が，最新の論文情報や知見も含めて易しく簡潔に分子生物学を概説．コラムを豊富に挿入し，鍵となった歴史的な発見や実験などにもふれます．若い読者に“これなら自分にもできる，自分でもやってみたい”と思わせる一冊．

＜生命の分子基盤＞ 細胞の構造と機能（**大隅良典**）／タンパク質，酵素（**永田和宏**）／代謝調節と代謝病（**門脇　孝**）／遺伝子とゲノム（**小原雄治**）／RNAバイオロジー（**塩見春彦**）
＜生命の維持と継承＞ 代謝調節と細胞間情報伝達の分子機序（**加藤茂明**）／細胞分裂（**山本正幸**）／がん（**山本　雅**）／胚発生と細胞分化（**近藤寿人**）／再生（**山中伸弥**）／老化（**石川冬木**）
＜生命のコントロール＞ 脳と神経（**岡野栄之**）／概日時計（**近藤孝男**）／植物科学の挑戦（**島本　功**）／感染症と宿主免疫（**小安重夫**）／ゲノム創薬科学（**辻本豪三**）

分子生物学に魅せられた人々

発売中　四六判　縦組　232 ページ　~~定価 1680 円~~ → **特価 1400 円**

創立 30 周年を期に，分子生物学が今日に至った道筋を，記憶の奥にしまいこまれてしまう前に記録することは重要と考え，日本の分子生物学の小史を書き留めることにしました．本書は，分子生物学進歩の臨場感を味わっていただけるように，我が国において分子生物学・分子生物学会の創立・発展に貢献した**下記 14 名**の方々に，現在第一線で活躍中の研究者がインタビューをし，まとめたものです．

富澤純一／岡田吉美／村松正實／志村令郎／吉川　寛／松原謙一／小川智子
堀田凱樹／柳田充弘／竹市雅俊／谷口維紹／岡田清孝／田中啓二／長田重一

なぜなぜ生物学

発売中　新書判　縦組　202 ページ　~~定価 1470 円~~ → **特価 1250 円**

中学生・高校生とその家族，あるいは生物を専攻しなかった社会人の方々がふと思う「いのち」にかかわる「なぜ？」について，分子生物学の最先端で活躍している研究者が対話形式でやさしく答えます．「いのち」の不思議を解く面白さを一人でも多くの人に知ってもらい，次の時代の分子生物学を担う若者の参入を期待します．

＜目 次＞ 遺伝子とパソコンソフトはどこが違うの？（**五十嵐和彦**）／なぜ肥満と痩せになるの？（**島野　仁**）／なぜ親子は似るの？（**正井久雄**）／なぜ癌になるの？（**花岡文雄**）／どうして心臓は左にあるの？（**松崎文雄**）／雄と雌ってなにが違うの？（**諸橋憲一郎**）／どうして毎年のようにインフルエンザに罹るの？（**永田恭介**）／なぜ地球環境にいいことをグリーンというの？（**篠崎一雄**）／ケガをしてもちゃんとなおるよね！（**阿形清和**）／クジラはどこから来たの？（**岡田典弘**）／組換え食品は安全なの？（**渡辺雄一郎**）／細胞の中って見えるの？（**永井健治**）／薬はどうやって創るの？（**吉田　稔**）

〒112-0011 東京都文京区千石3-36-7
http://www.tkd-pbl.com
東京化学同人
Tel 03-3946-5311／Fax 03-3946-5317
info@tkd-pbl.com

平成 24 年度（第 34 回）通常総会のご案内

平成 23 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人　日本分子生物学会
理事長　小原　雄治

以下の要領で第 34 回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

今年は会員が出席しやすいように総会と他の行事の重なりがないようにしました。また、ポスター討論の直後の展示会場内に簡易特設会場を設置して、まさに“開かれた”総会といたします。このために年会スケジュールの都合上、最終日となりましたが、多くの会員のご出席をお願い申し上げます。

ご存知のように、本学会は 2007 年に特定非営利活動法人となり、重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員＋名誉会員の 1/2 以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様の積極的なご参加をお願いいたします。

つきましては、同封はがき、あるいはメール返信（11 月中旬に配信予定）にてご出欠予定をお知らせください。ご都合がつかない場合には、必ず、委任状（同封はがき、あるいは 11 月中旬配信メールの返信）をご提出下さるようお願いいたします。

記

日　　時：平成 23 年 12 月 16 日㈮　12：50 ～ 13：30
場　　所：ポスター・展示会場 休憩コーナー内特設会場（パシフィコ横浜 展示ホール）
※総会当日、休憩コーナー（第 2 クローク側）に特設会場を設けます.

予定議題：1）経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）
2）23 年度（2011 年度）決算承認の件
3）24 年度（2012 年度）予算ならびに事業計画承認の件
4）定款変更の件
※ 3.11 地震の影響を受け、学会事務所は 4 月 28 日に移転しました。事後承認でお詫りする形となりましたが、定款 第 2 条 事務所所在地の変更の承認をお願いします.
≪特定非営利活動法人 日本分子生物学会 定款≫
第 2 条　（事務所）
（旧）この法人は、主たる事務所を東京都千代田区飯田橋 3 丁目 11 番 5 号 20 山京ビル 1105 号室に置く。
↓
（新）この法人は、主たる事務所を東京都千代田区飯田橋 2 丁目 11 番 5 号 人材開発ビル 4 階に置く。

第 1 回 富澤基金贈呈式のご案内

「富澤純一・桂子 基金」による第 1 回（2011 年）日本分子生物学会若手研究助成の贈呈式を下記の要領により開催します。多くの方々のご参加をお願いいたします。

理事長　小原　雄治
基金運営委員会委員長　山本　正幸

日　　時：平成 23 年 12 月 16 日㈮　13：30（総会終了後）～ 13：50 予定
場　　所：ポスター・展示会場 休憩コーナー内特設会場（パシフィコ横浜 展示ホール）

第 1 回助成者：
植木　紀子（Bielefeld University, Germany　博士研究員）
大澤志津江（神戸大学大学院医学研究科細胞生物学 G-COE　グローバル COE 研究員）
久原　　篤（甲南大学理工学部生物学科　講師）
佐野　浩子（お茶の水女子大学 お茶大アカデミック・プロダクション　特任助教）
茶谷　絵理（神戸大学大学院理学研究科化学専攻　准教授）
丹羽　隆介（筑波大学大学院生命環境科学研究科　助教）

第 34 回日本分子生物学会年会　開催のお知らせ（その 3）

分子からヒトへ　―メカニズムを知り、コントロールする―

会　　　　　期	2011 年 12 月 13 日㈫～ 16 日㈮（4 日間）
会　　　　　場	パシフィコ横浜
年　　会　　長	花岡　文雄（学習院大学 理学部）
年会事務局連絡先	第 34 回日本分子生物学会年会事務局 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-2-8 昭文館ビル 3 階 Tel：03-3230-2744　Fax：03-3230-2479　E-mail：mbsj2011@aeplan.co.jp URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2011/

※年会開催の詳細は同封のプログラム集をご参照ください。

【プログラム】

Leading Edge セミナー
Early Bird セミナー
シンポジウム
ワークショップ
一般演題（一般講演、ポスター発表）
（※プログラム集に掲載された演題に加え、一般演題投稿締切後の新たな研究結果等に基づく Late-breaking Abstracts のポスター発表も行われます。）
フォーラム
バイオテクノロジーセミナー
第 9 回日本分子生物学会三菱化学奨励賞受賞講演
若手教育シンポジウム
男女共同参画企画ランチョンワークショップ
機器・試薬・書籍等展示会
特別企画「HFSP シンポジウム」
「ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）」〔展示〕
「使ってみようバイオデータベース–広がるデータ、つながる世界（NBDC）」〔展示〕
市民公開講座

【参加登録に関するご案内】

○参加手続きについて

10 月 28 日㈮ 17:00 をもって事前参加登録受付を締め切りました。以後の参加登録受付は、年会当日に会場で行います。なお、オンライン上で事前参加登録を行った場合でも、11 月 4 日㈮までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前参加登録したことにはなりませんので、当日参加登録を行ってください。

事前参加登録者には 11 月下旬ごろ、参加章（名札）を送付いたしますので、年会当日は参加章を着用のうえ会場へご入場ください。参加章を着用していない方の入場は固くお断りいたします（12 月 16 日㈮市民公開講座を除く）。

○参加登録受付窓口

窓　口	場　所	時　　間	内　　容
第 1 受付	会議センター 2 階	8：00 ～ 18：00 （12 月 16 日㈮は 16：00 まで）	当日参加登録・総合案内 学会入会（学会事務局デスク）・宿泊案内（トラベルデスク）
第 2 受付	展示ホール 1 階	8：00 ～ 16：00 （12 月 16 日㈮は 12：00 まで）	当日参加登録のみ

○当日参加登録費

正会員	学生会員	非会員	学部学生
10,000 円	6,000 円 ※東日本大震災被災者は免除（要申請）	13,000 円 ※プログラム集含む	学生証提示により無料 ※院生は対象外

※国内在住者の参加登録費のお支払いは、現金のみとなります。

【プログラム検索・オンライン要旨閲覧システム】

○講演要旨集はオンライン化し、印刷物や CD-ROM を作成しません。

○事前参加登録者は、年会ホームページの「プログラム検索・オンライン要旨閲覧システム」から講演要旨等の閲覧・検索・ダウンロードをすることができます。なお、閲覧・ダウンロードをするには年会事務局が発行する ID とパスワードが必要です（ID とパスワードは参加章と一緒にお送りします）。

○事前参加未登録者は、講演要旨を閲覧・ダウンロードをすることはできません。プログラム検索のみ可能です。

○年会当日は、インターネットコーナー（会議センター B1 階、展示ホール 1 階）を設置しておりますので、ご利用ください。また、年会会場には無線 LAN もご用意いたしますので、ご自身の PC を用いて「プログラム検索・オンライン要旨閲覧システム」へアクセスいただくことも可能です。

＜「プログラム検索・オンライン要旨閲覧システム」はこちらから＞
年会ホームページ　　http://www.aeplan.co.jp/mbsj2011/
※ 11 月 21 日㈪より公開予定。
年会終了後、3 カ月を経たのちにシステムを閉鎖します。

日本分子生物学会三菱化学奨励賞授賞式および受賞講演のご案内

「第9回（2011年）日本分子生物学会三菱化学奨励賞」の授賞式および受賞講演を下記の要領により開催いたします。

●日　時：2011年12月15日㈭　12：15～13：30
●会　場：パシフィコ横浜 第4会場
（会議センター3階・303）
●司　会：石野　史敏
（分子生物学会庶務幹事 / 東京医科歯科大学）

本年は奨励賞授賞式および同受賞講演をランチョン形式で開催します。
皆様のご参加をお待ちしています。

※先着順にてお弁当を用意します【整理券は不要です】

≪授　賞　式≫　12：15～12：30

≪受賞講演Ⅰ≫　12：30～13：00
永樂　元次（理化学研究所　発生・再生科学総合研究センター　立体組織形成・解析ユニット　副ユニットリーダー）
（研究題目）
幹細胞の3次元培養系を用いた中枢神経系組織構築の自己組織化の機序
Self-organizing formation of CNS tissues in three-dimensional culture of stem cells

≪受賞講演Ⅱ≫　13：00～13：30
山下　暁朗（横浜市立大学医学部　微生物学・分子生体防御学　講師）
（研究題目）
動物細胞におけるmRNA監視機構の分子機構の研究
The analysis of gene expression regulation via mRNA surveillance system in mammals

日本分子生物学会　男女共同参画企画ランチョンワークショップ

全員参加の生命科学研究を目指して

日時：2011年12月13日㈫　12：15～13：30
会場：パシフィコ横浜 第4会場
（会議センター3階・303）
企画：日本分子生物学会 男女共同参画委員会
委員長：後藤由季子（東京大学）
副委員長：塩見春彦（慶應大学）
委員：井関祥子（東京医科歯科大学）、大杉美穂（東京大学）、佐藤　健（群馬大学）、篠原美紀（大阪大学）、竹内　純（東京大学）、原　英二（がん研究所）、本間美和子（福島県立医科大学）
協力：チエル㈱
＊先着順にてお弁当を配布いたします（整理券不要）。

【趣旨】

雇用機会均等法施行以来、日本でも女性の社会参加が進んで来ていますが、生命科学分野においてはどうでしょうか。これまで分子生物学会では積極的な取り組みを行い、大規模アンケートによる現状調査や、それに基づいた提言により新たな科学研究費RPDの設立に貢献するなど、実質的な改革につなげて来ました。しかしながら、依然として様々な面で男女の格差が存在することは否めません。残念ながら昨年の本学会におけるWS、シンポジウムでの口頭発表・座長の女性比率は8%と低く、特にシンポジウムに注目すると、生命系の7学会で行った調査結果では、最低の数字となっています（一般口演の女性比率は28%）。」

そこで、今回で11回目になる男女共同参画企画ワークショップにおきましては、まずこれまでの取り組みとその成果について概説し、その後にレスポンスシステムを用いて皆さんからのご意見を伺って、今後のあり方を考えるきっかけとしたいと思います。皆さんの積極的な参加を是非とも宜しくお願い致します。

【プログラム】

第1部　講演
「これまでの男女共同参画の取組みと成果」
本間美和子（福島県立医科大学）

第2部　講演
「意識改革の必要性について」
塩見　春彦（慶應大学）

第3部　聴衆参加型ワークショップ
会場の皆様にはレシーバーをお配りし、皆様のご意見をリアルタイムに前方画面に表示する「レスポンスシステム」を導入します。是非率直なご意見をお聞かせ下さい！

第4部　講演
「全員参加の生命科学研究を目指して」
後藤由季子（東京大学）

日本分子生物学会　若手教育シンポジウム
若手教育ランチョンセミナー2011
―研究者として独立するには？―（聴衆参加型レスポンスシステム導入）

●日　時：2011年12月14日㈬　12：15～13：30
（年会2日目）

●会　場：パシフィコ横浜　会議センター3階　301
（第2会場）※300席

●司　会：小林　武彦（遺伝研）
塩見美喜子（慶應大学）

第一部：講　演（30分）
山中　伸弥（京都大学iPS細胞研究所　所長）
「偶然と幸運から生まれたiPS細胞」

第二部：聴衆参加型パネルディスカッション（40分）
隅藏　康一（政策研究大学院大学　准教授）
「研究モラルとラボルール」
パネリスト：日本分子生物学会・若手教育問題ワーキンググループ
白髭　克彦（東京大学）、後藤由季子（東京大学）、小林　武彦（遺伝研）、塩見美喜子（慶應大学）、斎藤　通紀（京都大学）、上村　匡（京都大学）

※会場の皆様にはレシーバーをお配りし、皆様のご意見をリアルタイムに前方画面に表示する『レスポンスシステム』を導入します。

今年は大震災により日本が非常な試練に直面する年となりました。研究室の内外で、生まれて初めて制限された環境での活動を余儀なくされている方は未だに多いはずです。しかし、このような日々の困難は、我々に本質的なもの、無くてはならないものを強く認識する機会も与えています。今回で第5回となる若手教育シンポジウムでは、研究を生業とするとはどういうことか、研究者と研究の接点、そして研究の本質についてもう一度深く立ち返るべく、第一部では山中先生ご自身の研究史についての講演を、第二部では研究テーマの選定や研究生活の礎であるべきラボノートなどに関して聴衆参加型レスポンスシステムを利用しながら皆様と一緒に考えたいと思います。このシンポジウムが若い研究者の方々の未来を切り開く一助にならんことをワーキンググループ一同、願ってやみません。昨年同様お弁当も用意し、皆様のご参加をお待ちしております。

※お弁当には限りがありますので、12月14日㈬午前8時より、バイオテクノロジーセミナーデスク（展示ホール1階　第2受付）にて『参加整理券』を発券します。第一部と第二部を通して議論に参加下さる方々にお配りします。

主催：特定非営利活動法人　日本分子生物学会
協力：チエル㈱

第２回（2012 年）日本分子生物学会 若手研究助成募集のお知らせ

2011 年 11 月

本学会では、昨年、富澤純一博士と故・桂子夫人のご厚意を受け、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」を立ち上げ、2011 年度より若手研究助成事業を開始いたしました。本研究助成は、生命科学の基礎的研究に強い熱意をもって携わっているが、必ずしも研究資金に恵まれていない若手研究者を対象にしており、助成金の使途を直接的な研究経費に限定しないという我が国ではユニークな助成制度であります。

2012 年度も以下のように募集いたします。助成をご希望の方は、下記の応募要項に従ってふるってご応募ください。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長　小原　雄治
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」
基金運営委員会委員長　山本　正幸

＊＊＊

【応募要項】

１．研究助成金の趣旨

分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る若手研究者に対して、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」に基づいて助成します。選考に当たっては、本助成がその方の研究の発展にどれだけ効果的に寄与できるかという観点にも配慮します。

２．助成金額

助成金額は、一人 300 万円。年度ごとの助成人数は 5 名。再度の応募を妨げません。
（10 年間で総額 1 億 5000 万円を助成予定）

３．応募資格

⑴　分子生物学に関連する生命科学の基礎的な領域において独創的な研究を行い、将来の発展を期待し得る 39 歳以下（＊ 1972 年 1 月 1 日以降に生まれた人）の若手研究者を対象とします。ただし、研究経歴において特別な事情がある場合は 39 歳を超えていても応募を受け付けます。
⑵　日本分子生物学会会員・非会員は問いません。
⑶　申請者の単独研究、または申請者が中心になって行っている共同研究を対象とします。

４．研究助成金の使途、ならびに会計処理

⑴　研究推進に関係することであれば、使途は限定しません（例えば研究時間を確保するためのベビーシッター費用、海外留学費用なども可）。
⑵　本助成金は直接研究費以外にも自由度をもって使用できるものとします。そのために、原則、研究助成金は一時所得扱いとし、学会が源泉徴収を行います（50 万円を超える、250 万円につき 10％の源泉徴収を行います．分子生物学会が支払い調書を発行します）。
⑶　助成金の全額または一部を所属研究機関の委任経理金扱いにされたい場合は対応しますので、お申し出ください。この場合、当該部分に対する源泉徴収はありません。ただし本助成から間接経費の負担は行いません。

５．応募方法

申請書は、分子生物学会ホームページからダウンロードして使用してください。

⑴　最初に、第２回（2012 年）日本分子生物学会 若手研究助成 申請サイトへアクセスし、所定の内容を送信してください。

⑵　申請書10部（オリジナル1部とコピー9部）と論文別刷（3篇以内で各10部、コピー可）を提出（投函あるいは宅急便委託）してください。
⑶　上記⑵の郵送提出と同時に、申請書の電子データ（押印は不要）を添付ファイルの形で、kenkyujosei@mbsj.jpへメール送信してください。

以上、⑴⑵⑶のすべての手続きは、その順番どおりに手配を行い、必ず締切日までに3点の手続きを完了するようにしてください。

事務局の資料確認・照合の都合上、⑴⑵⑶それぞれの手続きは2日以内を目安に完了してください。

＊注意　ホームページ内に設置されます上記の「申請サイト」は、応募受付開始日より、その運用を開始します。

6．応募受付期間と締切期日

●応募受付期間：2012年1月10日㈫～2月10日㈮
●締切期日：2012年2月10日㈮　17：00（必着）

7．申請書送付先

〒102-0072 千代田区飯田橋2−11−5　人材開発ビル4階　日本分子生物学会事務局気付
「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会　御中
TEL：03−3556−9600
E-mail：kenkyujosei@mbsj.jp

8．選考方法

基金運営委員会が選考に当たります。書類審査の後、ヒアリングを実施し、その結果により、採択者を決定します。

「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会

委　員：山本　正幸（委員長 / かずさDNA研究所 / 東京大学）
岡田　清孝（副委員長 / 基礎生物学研究所）
阿形　清和（京都大学大学院理学研究科）
小原　雄治（国立遺伝学研究所）
近藤　　滋（大阪大学大学院生命機能研究科）
塩見美喜子（慶應義塾大学医学部）
嶋本　伸雄（京都産業大学総合生命科学部）
谷口　維紹（東京大学大学院医学系研究科）

9．研究助成金の交付

2012年6月頃に指定銀行口座に送金予定です。

委任経理金にする場合は、各大学等で定められている取扱い規定、その手続きにより交付します。

10. 贈呈式

第2回研究助成対象者については、原則として、2012年12月の第35回日本分子生物学会年会（福岡）における富澤基金贈呈式（総会）への出席を要請します。

11. 研究成果公表

本助成金を使用した研究成果を、学術雑誌等に公表する場合は、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子基金」（Tomizawa Jun-ichi & Keiko Fund of Molecular Biology Society of Japan for Young Scientist）から助成を受けた旨を明記してください。また、同刊行物の別刷等を1部、本学会事務局へ提出してください。

12. 研究成果および会計報告

⑴　本助成金受領者は、助成金を受領した翌々年の5月末までに、研究成果と会計報告の概要を、「日本分子生物学会 若手研究助成 富澤純一・桂子 基金」基金運営委員会あてに提出してください。様式は問いません（一時所得扱いの受領者は、会計報告に際して、領収書の提出は不要です．使途の一覧を提出ください）。

⑵ 本研究助成の贈呈対象者として、相応しくない行為があった場合には、助成金の返還を求めることがあります。

13. 本研究助成の趣旨に賛同し、基金への拠金をお考えくださる方は、分子生物学会事務局気付・基金運営委員会までお申し出ください。

＊その他

有志の方々へ

分子生物学の振興に向けた、各種基金のご寄付をお考えの方がおられましたら、是非ともご連絡ください。日本分子生物学会が責任を持って対応・運用いたします。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
TEL：03-3556-9600　FAX：03-3556-9611
E-mail：kenkyujosei@mbsj.jp

日本分子生物学会第 12 回春季シンポジウム 「トランスレーショナル分子生物学 ～新世代への知の継承～」のご案内

2012 年の春季シンポジウムは、桃花の季節の山梨で、1 泊 2 日の合宿形式で開催いたします。

今回のテーマは「トランスレーショナル分子生物学」としました。「トランスレーショナル」とは、「ベンチからベッドサイドに知見を繋げる」といった意味で最近、医学分野で使われている用語ですが、ここでは、「参加された方々に、学んだ知見を受け継いでいただき、分子生物学の担い手として、これをさらに発展させていただきたい」という主催者の思いをこめました。これをふまえ、講師には、若い研究者の範となるような分子生物学のトップランナーの方にお願いしました。

2009 年の小原現理事長が主催された年会では「分子生物学会の原点 ～すべては議論から～」と題し、本会の初期の熱気ある雰囲気の復活を目指されたと伺っています。今回もこの精神を引き継いで、参加された皆様が 2 日間にわたり議論をかわし、その過程を通じて、研究上の知己を見つけて帰っていただけたら、と考えている次第です。

この趣旨を汲んで、分子生物学を熱心に学びたいと考えている方々の積極的なご参加をお待ちしております。

【春季シンポジウム】

テーマ：「トランスレーショナル分子生物学 ～新世代への知の継承～」

会　期：2012 年 4 月 25 日㈬～ 26 日㈭

会　場：石和温泉（ホテル慶山）

参加登録費：相部屋（学生）→ 5,000 円
相部屋（一般）→ 10,000 円
シングル→ 15,000 円

参加登録費には、宿泊代（朝食付き）、昼食代、要旨集代が含まれます。

25 日㈬の夕食・懇親会には無料でご参加いただけます。

プログラム：

基調講演　一條　秀憲（東京大学）
「細胞がストレスを感じるシグナル伝達の仕組みと疾患」
石野　史敏（東京医科歯科大学）
「ゲノムインプリンティングから見えてくるもの ―哺乳類の個体発生と進化―」

招待講演　上川内あづさ（名古屋大学）
「脳の中の聴覚神経回路を探る」
鈴木　　洋（東京大学）
「拡大する小さな RNA の世界」
有田　　誠（東京大学）
「脂質メタボロミクスによる炎症の制御機構の解析」
柳澤　　純（筑波大学）
「核小体による代謝制御」
堀家　慎一（金沢大学）
「高次遺伝子発現制御機構へのブレイクスルー」
東田　裕一（九州大学）
「細胞の記憶を消すメカニズム ―クロマチンのメチル化修飾制御機構―」
岩里　琢治（国立遺伝学研究所）
「幼仔脳における神経回路の発達 ―マウス体性感覚野（バレル野）での研究―」

赤松　和土（慶應義塾大学）
「多能性幹細胞から神経幹細胞を生み出す分子機構とその応用」
大隅　典子（東北大学）
「脳の中の幹細胞」
石川　俊平（東京大学）
「細胞間相互作用のシーケンシング」
若菜　茂晴（理化学研究所）
「マウス全遺伝子機能解明プロジェクトとマウスクリニック ―マウス表現型解析の標準化への潮流―」
若山　照彦（山梨大学）
「自分の土俵 ―餅は餅屋で世界一を目指せ―」

ポスター　演題投稿は、2012 年 1 月中旬に受付開始の予定です。
講師にポスター討論のディスカッサー役をお願いしています。

【市民公開講座】

テーマ：「からだと健康を知る最先端の技術」
日　時：2012 年 4 月 21 日㈯　14 時（予定）
会　場：コラニー文化ホール
参加費：無料
講　演：倉永英里奈（理化学研究所）
「からだの形づくりを視る技術の最先端」
菅野　純夫（東京大学）
「個人ゲノムでかわる医学研究」

世話人：久保田健夫
（山梨大学大学院　環境遺伝医学講座）
事務局：〒 409-3898　山梨県中央市下河東 1110 番地
山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝医学講座
TEL：055-273-9557　FAX：055-273-9561
E-mail：environ@med.yamanashi.ac.jp

学会誌『Genes to Cells』に関するお知らせ

『Genes to Cells』は、生命科学のあらゆる分野、そして理論解析やフィールドワークを含む多様なアプローチなど、幅広い分野の研究者から論文を投稿していただけるよう、投稿規程を大幅に改訂しました。『Genes to Cells』では、論文ごとに選任されたエディターまたはアソシエートエディターが、レフェリーからのコメントを元に最終的な判断を下します。ご投稿前に、研究内容に近いエディター・アソシエートエディターにコンタクトをとっていただくことができます。もし適当な方がおられない場合は、編集室 office@genestocells.jp 宛にお気軽にご連絡ください。投稿のサポートもさせていただきます。

本年７月号（Vol.16 Issue.7）には、東日本大震災からの復興という厳しい状況にある会員からの Commentary を掲載するなど、日本発の国際ジャーナルとして意義をさらに深めています。

＊Life science must go on: standing up after the 311 disaster (pages 741-744) Noriko Osumi
＊Toward the second stage of recovery from the 3.11 Tohoku Earthquake (pages 745-747) Asako Sugimoto

また、著者が所定の費用を負担することで、出版から半年を待つことなくオープンアクセスに設定可能なサービス「Online Open」を昨年より導入し、多くの著者に支持されるなど採用実績も順調に推移しています。この「Online Open」を設定した論文は、掲載と同時にオープンアクセスとなり、世界中からフリーでアクセスすることができます。

論文タイトルの日本語版について、会員向けのメール配信および学会ホームページでの公開により、最新論文へのダイレクトリンクも可能にしています。『Genes to Cells』が生命科学の幅広い分野を対象としていることを改めてご理解いただき、引き続き本誌へのご稿をお願いします。日本の伝統絵画の中に生命科学の遊び心を加えた表紙もぜひご覧下さい。

個人会員（正会員、名誉会員、学生会員）はオンライン版のフリーアクセスが可能ですので、ご希望の方は学会事務局＜ info@mbsj.jp ＞へメールにてお申し込み下さい。

【プリント版の会員特別価格購読について】

本学会の会員は、『Genes to Cells』の冊子版を会員特別価格で購読することができます。学会ホームページから申込書をダウンロードし、必要事項を記入のうえ学会事務局へお送り下さい。サンプルのご依頼にも対応しています。

2011 年も購読中の方には、記入が簡単な継続専用の申込書を別途お送りしましたので、そちらをご利用のうえ学会事務局へご返送をお願いします。

※　個人購読料　16,500 円／年（正会員、学生会員）
　　機関購読料　35,000 円／年（賛助会員）

編集幹事　上村　匡

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報No.99（7月号）および学会HPに一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、本学会賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1.　提出物

1)　本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）

2)　本学会の選考委員用および学会用控に、上記申請書類のコピー計6部

3)　申込受付確認のための返信封筒（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

4)　論文（別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です）

2.　提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長　小安　重夫
〒102-0072　千代田区飯田橋2-11-5
人材開発ビル4階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長　西田　栄介
〒102-0072　千代田区飯田橋2-11-5
人材開発ビル4階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの1カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がありましたら、学会事務局までお問合わせ下さい。

4. 留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いします。

○山田科学振興財団2012年度研究援助のご案内

山田科学振興財団では、自然科学の基礎的研究に対して、研究費の援助をいたします（実用指向研究は援助の対象としません）。

1）萌芽的・独創的研究
2）新規研究グループで実施される研究
3）学際性、国際性の観点からみて優れた研究
4）国際協力研究

・援助額は1件当たり100～500万円、総額3,000万円、援助総件数は15件程度。
【分子生物学会の学会推薦枠は5件です】
・援助金の使用期間は、贈呈した年度及びその次の年度の約2年間とします。
・申請者資格
1．当該研究を独立して実施し得る者。すなわち、当該研究者は代表研究者であることを必要とする。
2．身分、経歴、年齢等は問いません。但し、日本の研究機関に所属する研究者であることが必要。

●例年より締切が1カ月早くなりましたのでご注意ください！
・分子生物学会への応募（学会推薦）締切：
2012年1月31日
・山田科学振興財団申込み期限締切：
2012年2月29日（必着）

・申請手続き詳細は、山田科学振興財団ホームページ（2012年度研究援助のページ）にてご確認ください。
http://www.yamadazaidan.jp/enjyo2.html

≪問合せ先≫
公益財団法人　山田科学振興財団
（Yamada Science Foundation）
〒544-8666
大阪市生野区巽西1丁目8番1号
電話（06）6758-3745（代表）

各種学術集会、シンポジウム、講習会等のお知らせ

○ JST さきがけ公開シンポジウム 「RNA と生体機能」領域 第 3 回研究報告会

日　程：2011 年 12 月 12 日(月)
会　場：東京大学弥生講堂・一条ホール
（東京都文京区弥生 1−1−1　東京大学弥生キャンパス）
主　催：独立行政法人　科学技術振興機構（JST）
参加費：無料
参加申込方法：下記の領域ホームページからお申込み下さい。
http://www.rna.jst.go.jp/sympo/index.html

さきがけ研究は、国が示した戦略目標に基づく各領域において未来のイノベーションの芽を育む個人型研究です。この公開シンポジウムにおきましては、「RNA と生体機能」領域（研究総括　野本 明男）の 3 期研究者 9 名が研究期間終了にあたって研究の成果を報告いたします。

プログラム：
テーマ 1「RNA の機能」
座長：坂本　博（神戸大学 教授）
mRNA の選択的スプライシングパターン：生体内可視化と制御機構
東京医科歯科大学大学院 疾患生命科学研究部
准教授　黒柳　秀人
核内長鎖ノンコーディング RNA による新しい細胞内プロセスの解明
理化学研究所 中川 RNA 生物学研究室
准主任研究員　中川　真一
光ピンセットによる 1 細胞解析から明らかになった母性遺伝の分子基盤
京都大学大学院 理学研究科 助教　西村　芳樹

特別講演
座長：野本　明男（研究総括）
インフルエンザ・パンデミック
東京大学医科学研究所 教授　河岡　義裕

テーマ 2「RNA とタンパク質」
座長：杉本　亜砂子（東北大学 教授）
mRNP の構造と活性の調節による mRNA の制御
理化学研究所基幹研究所 専任研究員　松本　健
不要な mRNA を選択的に分解する—機構解明と展望
筑波大学大学院 生命環境科学研究科
助教　杉山　智康
RNA とタンパク質の世界をつなぐ mRNA アミノアシル化の起源とメカニズム
東京理科大学基礎工学部 生物工学科
准教授　田村　浩二

テーマ 3「RNA 研究の展開」
座長：奥野　哲郎（京都大学 教授）
HIV-1 初期転写産物の機能解析と生合成機構の解明
東京大学 医科学研究所 助教　水谷　壮利
精子形成における小分子 RNA 産生のしくみと役割
科学技術振興機構 専任研究者　宮川　さとみ
植物の小分子 RNA を介したゲノム間相互作用の解析とその応用
名古屋大学 大学院 生命農学研究科
准教授　佐藤　豊

○超解像国際シンポジウム
「International Symposium on Super-Resolution Imaging 2011」のお知らせ

■日時：平成 23 年 12 月 12 日(月) 9：00 〜 18：30
■場所：オークラアクトシティ浜松
（〒 430−7733 静岡県浜松市中区板屋町 111−2、JR 浜松駅東口より徒歩 3 分）
■主催：JST CREST, レーザ顕微鏡研究会
■招待講演者：
・Winfried Denk (Max-Planck-Institute for Medical Research, Germany)
Two-Photon Microscopy (tentative)
・Tony Wilson (University of Oxford, UK)
Confocal Microscopy (tentative)
・Masud Mansuripur (University of Arizona, USA)
Plasmonics (tentative)
・Pakorn Kanchanawong (National Univ. of Singapore, Singapore)
PALM: Photo-Activated Localization Microscopy (tentative)
・Peter Calton (Kyoto University, Japan)
Structured Illumination Microscopy (tentative)
・Akihiko Nakano (RIKEN, Japan)
Live Imaging Beyond the Diffraction Limit
—An Approach by High-speed and High-sensitivity Confocal Microscopy

・Yasushi Sako and Michio Hiroshima (RIKEN, ASI, Japan)
Super Localization Microscopy of the Clustering of Plasma MembraneReceptors

■参加費：無料
■申込み：下記ＵＲＬより参加登録を行ってください。
■連絡先：
静岡大学　川田　善正
〒 432-8561 静岡県浜松市城北 3-5-1
E-mail：SuperImaging@eng.shizuoka.ac.jp
TEL：053-478-1069
URL：http://optsci.eng.shizuoka.ac.jp/SuperImaging/

○千里ライフサイエンス国際シンポジウム

2012 Senri Life Science International Symposium on "Cutting-edge of Autophagy Study"

■日　時：2012 年 1 月 20 日㈮　9：30 ～ 17：10
■場　所：千里ライフサイエンスセンタービル
5 階ライフホール
（大阪府豊中市新千里東町 1-4-2、
地下鉄御堂筋線 / 北大阪急行千里中央下車）
■コーディネーター：田中　啓二
（東京都医学総合研究所 所長）
大隅　良典
（東京工業大学 統合研究院 先進研究機構 教授）
■主　催：千里ライフサイエンス振興財団
■プログラム：

9：30～9：40　Opening address
Tadamitsu Kishimoto（President of Senri Life Science Foundation）

9：40～9：50　Introduction
Yoshinori Ohsumi（Tokyo Institute of Technology）

9：50～10：40　"New approaches toward the elucidation of molecular mechanisms of autophagy"
Hitoshi Nakatogawa（Tokyo Institute of Technology）

10：40 ～ 11：30　"Insights into membrane dynamics in selective and non-selective autophagy"
Tamotsu Yoshimori (Osaka University)

11：30～12：20　"Selective autophagy mediated by autophagic adapter proteins"
Terje Johansen (University of Tromsoe, Norway)

12：20～13：20　― Lunch ―

13：20～14：10　"The mechanism of secretory autophagosomes mediated unconventional protein secretion"
Vivek Malhotra（Center for Genomic Regulation, Barcelona, Spain）

14：10～15：00　"Parkinson's disease（PD）and autophagy: Two familial PD gene products, PINK1 and Parkin, cooperate to identify, label and clear damaged mitochondria"
Noriyuki Matsuda（Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science）

15：00～15：20　― Brake ―

15：20～16：10　"Neuronal autophagy and its therapeutic potential for neurodegenerative disease"
Steven Finkbeiner（University of California, San Francisco, USA）

16：10～17：00　"Autophagy regulation in cells and whole organisms"
Noboru Mizushima（Tokyo Medical and Dental University）

17：00～17：10　Closing remarks
Keiji Tanaka（The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science）

■使用言語：英語
■申込要領：氏名、勤務先、所属、〒所在地、電話番号、E メールアドレスを明記の上、E メールで下記宛お申し込み下さい。件名は「千里ライフサイエンス国際シンポジウム C6」として下さい。
■定　　員：200 名（参加人数によりライフホールが満席となった場合、サイエンスホールにて中継画像による視聴をお願いする場合もありますのでご了承下さい）
■締　　切：2011 年 12 月 20 日
※定員になり次第締め切らせて頂きます。
■参 加 費：無料
■申 込 先：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団国際シンポジウム C6 係
E-mail：sng@senri-life.or.jp
TEL：06-6873-2001
URL：http://www.senri-life.or.jp
〒 560-0082
大阪府豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル 20 階

第 17 期役員・幹事・各委員会名簿

理事長 （任期：2011 年 1 月 1 日～ 2012 年 12 月 31 日）

小原　雄治　（遺伝研）

副理事長

相沢　慎一　（理研・CDB）
大隅　典子　（東北大・医）

理　事

阿形　清和　（京大・理）
五十嵐和彦　（東北大・医）
上田　泰己　（理研・CDB）
影山龍一郎　（京大・ウイルス研）
後藤由季子　（東大・分生研）
塩見　春彦　（慶應大・医）
杉本亜砂子　（東北大・生命）
谷口　維紹　（東大・医）
永田　恭介　（筑波大・人間総合科学）
鍋島　陽一　（先端医療財団先端医療センター）
花岡　文雄　（学習院大・理）
水島　　昇　（東医歯大・医歯）
柳田　充弘　（沖縄科学技術研究機構）
米田　悦啓　（阪大・生命機能）
審良　静男　（阪大・IFReC）
石川　冬木　（京大・生命）
貝淵　弘三　（名大・医）
五條堀　孝　（遺伝研）
小安　重夫　（慶應大・医）
白髭　克彦　（東大・分生研）
田中　啓二　（都医学研）
月田早智子　（阪大・生命機能）
中山　敬一　（九大・生医研）
西田　栄介　（京大・生命）
三浦　正幸　（東大・薬）
宮園　浩平　（東大・医）
山本　雅之　（東北大・医）

（50 音順）

監　事　勝木　元也（自然科学研究機構）、町田　泰則（名大・理）

幹　事

庶務幹事　石野　史敏（東医歯大・難治研）
会計幹事　塩見　春彦（慶應大・医）
編集幹事　上村　　匡（京大・生命）
広報幹事　荒木　弘之（遺伝研）、篠原　　彰（阪大・蛋白研）
集会幹事　柳澤　　純（筑波大・TARA センター / 第 34 回年会）（第 35 回年会組織委員より 1 名、就任予定）

Genes to Cells 編集長　柳田充弘（沖縄科学技術研究機構）

Genes to Cells 将来計画ワーキンググループ　荒木弘之、林　茂生、平岡　泰、宮園浩平

賞推薦委員会　小安重夫（委員長）、相沢慎一、石川冬木、大隅典子、水島　昇

研究助成選考委員会　西田栄介（委員長）、五條堀孝、月田早智子、三浦正幸、山本雅之

男女共同参画委員会　後藤由季子（委員長）、塩見春彦（副委員長）、井関祥子、大杉美穂、佐藤　健、篠原美紀、竹内　純、原　英二、本間美和子

研究倫理委員会　花岡文雄（委員長）、岡田清孝、田中啓二

〈研究倫理委員会下部組織〉

若手教育問題ワーキンググループ　白髭克彦（WG 座長）、上村　匡、後藤由季子、小林武彦、斎藤通紀、塩見美喜子

学術事業企画委員会（30 周年記念出版）　永田恭介（委員長）、伊藤耕一、稲田利文、入江賢児、塩見春彦、島本　功、菅澤　薫、中尾光善、林　茂生、三浦正幸、渡邊嘉典

「日本分子生物学会　若手研究助成　富澤純一・桂子基金」

基金運営委員会（任期：2010 年 10 月 1 日～ 2014 年 12 月 31 日）

山本正幸（委員長）、岡田清孝（副委員長）、阿形清和、近藤　滋、塩見美喜子、嶋本伸雄、谷口維紹、小原雄治（職指定委員）

日本分子生物学会　賛助会員一覧

（2011 年 11 月 1 日現在）

アサヒビール株式会社 食の基盤技術研究所
株式会社アドバンテージ・サイエンス
株式会社エー・イー企画
沖縄科学技術研究基盤整備機構 事業推進部
科学技術振興機構 バイオサイエンスデータベースセンター
科研製薬株式会社 創薬研究部
協和発酵キリン株式会社 研究本部研究推進部
株式会社コクサン
コスモ・バイオ株式会社 開発部
産業技術総合研究所 北海道センター図書室
ジャスコインタナショナル株式会社 第二事業部営業一課
住友化学株式会社 農業化学品研究所
第一三共株式会社 抗体医薬研究所
タカラバイオ株式会社 バイオインダストリー部
武田バイオ開発センター株式会社 プロジェクトマネジメント部
株式会社ダスキン開発研究所
田辺三菱製薬株式会社 研究本部研究企画部
東洋紡績株式会社 ライフサイエンス事業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 技術営業部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 BD バイオサイエンス
日本たばこ産業株式会社 植物イノベーションセンター
日本たばこ産業株式会社 たばこ中央研究所
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
ヒゲタ醤油株式会社 研究開発部
日立公共システムエンジニアリング株式会社
富士レビオ株式会社 研究開発部門研究支援グループ
フナコシ株式会社
株式会社ボナック
三菱化学株式会社 RD 戦略室
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室
ライフテクノロジーズジャパン株式会社
ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 AS 事業部
湧永製薬株式会社 湧永満之記念図書館
和研薬株式会社 大阪センター営業推進部

〈50 音順〉

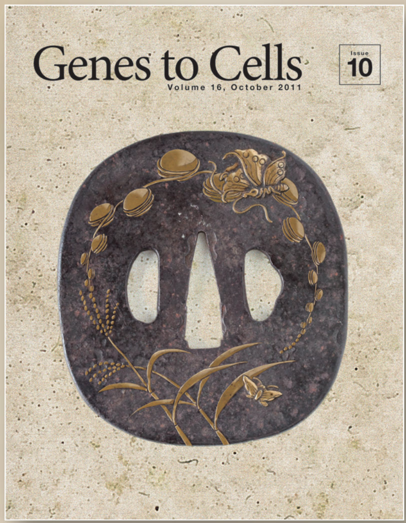
■第 34 回（2011年）日本分子生物学会年会 公式サイト
URL：http://www.aeplan.co.jp/mbsj2011/

※学会事務所は 4 月 28 日に下記住所へ移転しました。
TEL. FAX. E-mail は変わりません。

特定非営利活動法人
日本分子生物学会　事務局

〒 102-0072　東京都千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
TEL: 03-3556-9600　FAX: 03-3556-9611
E-mail: info@mbsj.jp

Genes to Cells



Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Mitsuhiro Yanagida
Frequency: Monthly | **Impact Factor:** 2.889

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や、先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界で4,000以上の機関で読まれており、年間12,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells　投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への収載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- 出版されると直ちに無償公開となるオープンアクセスオプション『OnlineOpen』（有料）をご利用いただけます

オンライン投稿はこちら
http://mc.manuscriptcentral.com/gtc

2010年出版 引用数TOP 論文　*2011年9月末現在

p62/SQSTM1 cooperates with Parkin for perinuclear clustering of depolarized mitochondria (Volume 15, Issue 8)
Okatsu, K; Saisho, K; Shimanuki, M; Nakada, K; Shitara, H; Sou, Y; Kimura, M; Sato, S; Hattori, N; Komatsu, M; Tanaka, K; Matsuda, N

Structural insight into the membrane insertion of tail-anchored proteins by Get3 (Volume 15, Issue 1)
Yamagata, A; Mimura, H; Sato, Y; Yamashita, M; Yoshikawa, A; Fukai, S

Selective autophagy regulates various cellular functions (Volume 15, Issue 9)
Komatsu, M; Ichimura, Y

ジャーナル閲覧ページ
www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc
日本分子生物学会の会員はオンラインジャーナルに無料でアクセスしていただけます。
ユーザー登録は学会事務局までお申し込みください。
日本分子生物学会事務局：info@mbsj.jp

登録後のアクセスに関するご質問は、
Wiley-Blackwellカスタマーサービスにて承ります。
Wiley-Blackwellカスタマーサービス：cs-japan@wiley.com

WILEY-BLACKWELL

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

（年 3 回刊行）

第 100 号 （2011年11月）

発　行——特定非営利活動法人　日本分子生物学会

代表者——小原　雄治